

## ボタンのなるものを縫いつける

sumie を紐解くこと、これがこの短文の役割である。

そこで以下では、「ボタンの歴史」、「ブランド名」、「ボタンの本質」の三点から sumie とは何かを考えていきたい。

### ・ボタンとは何か？

ボタンの歴史を理解することは、初学者には意外にむずかしい。

それは「これはボタンの話なのだろうか？」と感じられることが多いからだ。ほぼすべての書籍が、古代ローマの「フィブラ」（ブローチやピンに近いもの）からボタンの歴史を書き始めている。また、「ボタン」がある時期には記章のように用いられ、ある時期には宝飾品のように用いられてきたことなど、今の感覚では「ボタン」ではないものが、「ボタン」の歴史として説明されていることも、掴みがたさの原因であろう。

初学者の一人である僕には、「ボタンとは何か」に対する簡潔な答えは提示できない。

十全な理解をあきらめてボタンの歴史を読み直したとき、興味深く感じられるのが「語源」と「表記」である。

ボタンはポルトガル語の *botaô* から転化したもので、元々は「花の蕾」を意味していたという。おそらくは形態的なアナロジーであろうが、花それ自体ではなく蕾という未成熟な状態に語源があることは、ボタンという存在の控えめさと関わっているようにも感じられる。

漢字で表記する場合には「釦」と書かれるが、この文字は「叩いてへりを作りかざる意である」という（白川静、2004、『字統』平凡社、317）。

また、江戸時代には「鎖釦」や「鎖紐」、明治初期には「紐釦」と書き記され（藤沢隆三監修、1990、『ボタン文化史』アイリス、1）、「衣紐（いちゆう）」とも書かれていたようである（白川前掲、318）。洋服に使われるボタンを書き表すにあたり、着物でもなじみのある紐を用いたことが伺える。ともに大したエピソードではないが、ここには「ボタンとは何か？」を考える初学者向けのヒントがあるようにも思われる。

現在では使われない「紐釦」という表記が、布と布を繋ぎ留める器具の歴史的な変化を伺わせるものであり、紐やファスナーやピンが「ボタンの親戚」であることを想起させるものでもあるからだ。

定義は簡潔でなければならない。初学者であることを云い訳にして、あえて次のようにボタンを定義したい。

ボタン「布と布を一時的に留めるために使われる小物」

この定義に従えば、sumie とは「布と布を一時的に留めるために使われる小物」を作っているブランドとなるだろう。

### ・宮園の祖母の名前がボタンのブランド名として冠されているのはなぜか？

洋裁で生計を立てる「ばあば」が「ボタンを選ぶときが一番幸せだった」と云っていたことを、宮園はボタンデザイナーになるきっかけだったと語っている。小さなガラスのオブジェを買いに行くたびに、「ばあば」は「たくさんあるからかわいいのよね」と云いながら、宮園のためにひとつ選んでくれたという。

（これを読んでいる人には当てはまらないかもしれないが）普段からボタンを選んでいるという人は多くない。洋服には当たり前のようにボタンがついており、そもそも選ぶ機会がないからだ。

ボタンを選ぶ機会はほとんどないが、宮園のエピソードからも分かるように、選ぶ機会に出くわした際の選択肢の数は、洋服よりもはるかに多い。また、アクセサリほど高価ではなく、手軽に選ぶことができる。

sumie がボタンに託して提供するのこのような「選ぶ幸せ」であり、「ばあば」が感じたであろう幸せを縫い込むために、ボタンのブランドに「ばあば」の名を付けたのではないだろうか。

### ・sumie らしさとは何か？

「布と布を一時的に留めるために使われる」ボタンを「選ぶ幸せ」として提供する sumie を象徴的に表しているのは、YURI PARK（ニットカーディガン）や大森商店（傘）とのコラボレーションであろう。sumie のボタンがつけられるのは布だけではなく、ボトルの留め具にも使われている。

一見すると華奢であるが、手に取ってみると「留める」というボタンの役割が意外なほどに全うされていることに気がつく。当たり前ではあるが、かわいさや美しさや繊細さの代わりに「留める」というボタンの本質が放棄されている、ということもない。ちゃんとしているのである。

こだわりというより、おそらく宮園の性分なのだろう。

奇妙な云い方かもしれないが、ボタンはボタンであるかぎり、ちゃんとしている。すぐ外れるものや簡単に欠けてしまうものは、ボタンではない。その意味において、sumie は「ボタンの」なのだ。

あなたがこの短文を読んでいる今は、おそらく、sumie の展示を見終わった後だろう。いったいどこが「ボタンの」であるのか、具体的な箇所は詳述しない。よろしければ、改めて手に取って、確認してほしい。